

Focus Area : 聴覚再生

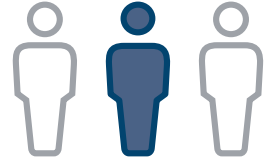
失われた聴力を改善・回復させることによって、
社会との繋がりを取り戻す

Our Goal

再生医療と局所ドラッグデリバリー技術を活用した治療法を探索・開発し、感音難聴に対する治療を提供する。

現在の医療では達成できていない聴覚機能の回復を目指す。

Background



難聴に苦しむ人の割合は、65～74歳の場合は約3分の1であり、75歳以上になると2分の1に増える。¹

現在、難聴の治療選択肢は限られており、難聴になると、社会的孤立を招いたり、大切な人々と十分にコミュニケーションがとれなくなったりするなど、QOLに重大な支障が生じる。

アステラスは、感音難聴患者さんの聴力の改善、さらには回復を実現する可能性を持つ革新的な治療法を開発している。

戦略的アプローチ

局所ドラッグデリバリー技術と、聴覚機能を再生する可能性を持つ有望な薬剤とを組み合わせた新薬候補に投資していく



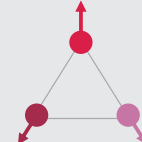
FOCUS
集中

蝸牛障害を原因とする感音難聴に対する新しい治療法の開発に優先的に投資する



ENRICH
強化

研究開発プラットフォームを活用して、病態生理に重要な内耳細胞を標的とした、差別化可能な独自のパイプラインを構築する



EXPAND
拡大

アンチセンスオリゴヌクレオチドや遺伝子治療薬などの次世代テクノロジー／モダリティを、自社および外部パートナーとともに探究する

差別化可能なプラットフォーム技術



耳科学分野の研究開発ケイパビリティと独自のパイプライン



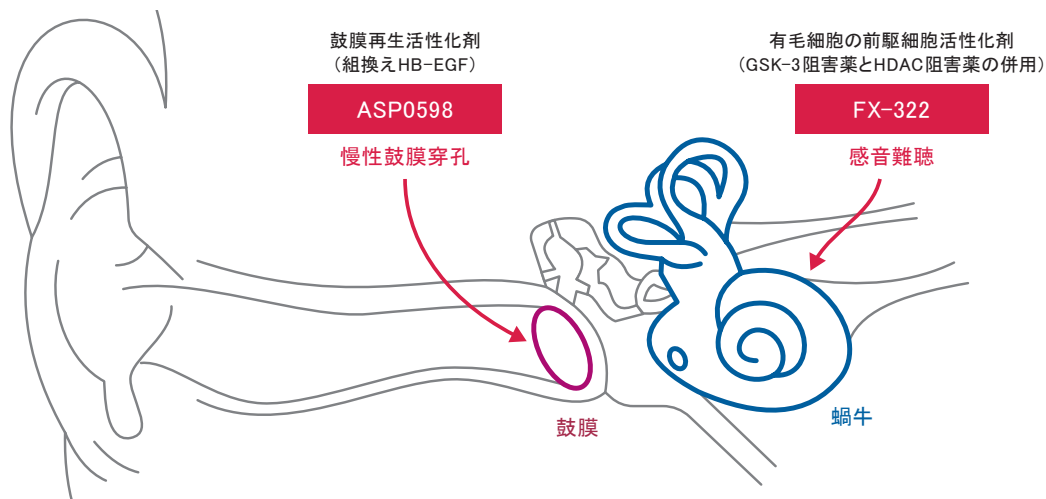
多様なモダリティを活用し、安全かつ有効で使い勝手のよい治療法を提供



聴力を再生する可能性のある革新的な薬剤を生み出すプラットフォームとケイパビリティ

アセットと作用機序

聴力を回復させる
革新的なモダリティを探索している



HB-EGF : ヒトヘパリン結合性上皮細胞成長因子様増殖因子、GSK-3 : グリコーゲンシンターゼキナーゼ-3、HDAC : ヒストンデアセチラーゼ

細胞を再生・補充するための薬剤を 直接耳の内部に送達する

アステラスは世界をリードする再生医療の研究開発拠点へと飛躍的に進化しています。難聴は再生アプローチを応用できる可能性が非常に高い疾患です。細胞を再生・補充するための薬剤を直接耳の内部に送達する治療は、現在治療選択肢のない患者さんに、聴力機能を改善できるという希望をもたらします。

難聴に対する革新的な治療法を開発する手がかりは、細胞を再生・補充する薬剤を蝸牛と中耳へ有効かつ安全に送達するドラッグデリバリー技術にあります。

聴覚機能の回復を目標とする耳科疾患向けプログラムが続々と計画されています。リードプログラムであるFX-322は感音難聴に対する有毛細胞の前駆細胞活性化剤で、現在第Ⅱ相臨床試験が行われています。

開発パイプライン[†]

専門家やアカデミアなどのパートナーとの協働による競争力のあるパイプラインの構築

開発品	モダリティ	作用機序	オリジネーター/ パートナー	対象疾患	ステージ		
					前臨床／研究	臨床第Ⅰ相	臨床第Ⅱ相
FX-322	低分子	有毛細胞の前駆細胞 活性化剤 (GSK-3阻害薬と HDAC阻害薬の併用)	FREQUENCY THERAPEUTICS *	感音難聴			
ASP0598	組換えタンパク	鼓膜再生のための 組換えHB-EGF	AURATION BIOTECH *	慢性鼓膜穿孔			
(非開示)	(非開示)	有毛細胞の再生	(非開示)*	感音難聴			
(非開示)	(非開示)	(非開示)	社内	感音難聴			

HB-EGF : ヒトヘパリン結合性上皮細胞成長因子様増殖因子、GSK-3 : グリコーゲンシンターゼキナーゼ-3、HDAC : ヒストンデアセチラーゼ

[†] 2021年6月現在 * 共同研究により創出

参考文献: 1. 米国立老化研究所 (NIA) の難聴に関するファクトシート (2018年11月更新) のデータ

この資料に記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述及びその他の過去の事実ではない記述は、アステラス製薬の業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見やりや想定によるものであり、既知及び未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。様々な要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i) 医薬品市場における事業環境の変化及び関係法規制の改正、(ii) 為替レートの変動、(iii) 新製品発売の遅延、(iv) 新製品及び既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v) 競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi) 第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。また、この資料に含まれている医薬品 (開発中のものを含む) に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

